

### 秋田大学教育文化学部と附属学校との共同研究など

長瀬 達也

#### 1. はじめにー学力トップクラスの秋田県教育への貢献ー

全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）は、秋田県の児童生徒が常に全国トップクラスの学力を身に付けていることを示しています。これは秋田県の現場の教員が、確かな学力を身に付けさせるために真摯に児童生徒に向き合い、やるべきことを校内及び校外の研修の積み重ねで導き出し、バランスよく成し遂げてきたことが大きな要因だと考えられます。この基盤の形成に、秋田大学教育文化学部における附属学校と学部の共同研究は、例えば附属学校の児童生徒が活動的に自ら学んでいく姿を公開研究協議会で継続的に示してきたことなどで、確実に貢献してきたと考えています。これからも、秋田大学教育文化学部と附属学校は共同研究を推進して、秋田県の実状を踏まえた教育力向上の具体的手立てを提示し、秋田県教育に貢献していきます。

#### 2. 秋田大学教育文化学部と附属学校との共同研究の特色ー「距離」が近いという関係ー

秋田大学教育文化学部と附属の小学校・中学校・幼稚園・特別支援学校は、わずか2キロ弱の距離にあります。そして、この4つの附属校園が同一敷地内にあります。大変な好条件と言えます。

お陰で、学部の教員は距離などのストレスなどを感じることなく、日常的に附属学校を共同研究のために訪れ、児童生徒の観察や附属学校教員との打合せなどを行うことができます。学生や教職大学院生も、教育実習以外で附属学校を自転車や徒歩で訪れては、卒業論文などに関連する研究授業や調査などに取り組んだり、校内研修会に参加したりしています。

附属校園同士の交流や共同研究も盛んで、例えば幼稚園の年長と小学校1年生との交流、小学校や中学校と特別支援学校の交流や共同学習などが日常的に行われています。小学校の研究委員長の菅野宣衛先生は、特別支援学校における教科指導の実践や研究に対して日常的に助言を行っています。

このように、秋田大学教育文化学部と附属学校の教員の関係は、物理的な距離の近さもあって、心理的にも近い「距離」にあります。その結果、小学校国語教育研究グループなど 38 の共同研究グループ（幼稚園 3、小学校 16、中学校 15、特別支援学校 4）があり、101 回の会合をのべで 23 教科・領域など（幼稚園 24 回、小学校 8 教科 34 回、中学校 11 教科・領域 37 回、特別支援学校 3 教科 6 回）で行うなど、活発な学部と附属学校との共同



附属学校の校内研修会にも参加している教職大学院生



附属小学校と附属特別支援学校との共同学習

研究が行われています。

さて、大学・学部と附属学校の共同研究は、ともすると大学・学部の教科教育学専門教員が担当することが多くなりがちです。これは教科内容専門教員と、教科教育学専門教員や附属学校の教員との心理的な「距離」が遠くなることにつながります。この課題を越えるために本学部では、様々な取組を行っています。

附属中学校では、既に軌道に乗っている取組があります。その一つである「理数教育プロジェクト」は、学部の教科内容専門教員と教科教育学専門教員が理科や数学の専門的な授業や実験など行うものです。昨年度は全学年を対象にして11回実施し、毎回30名を越える生徒が参加しています。

附属小学校では今年度の共同研究から、教科教育学専門教員だけでなく、教科内容学専門教員も「教材分析協力者」として参加することになりました。



教科内容学専門教員の山口祥司(位相幾何学)の授業

### 3. 附属学校との共同研究の醍醐味—山名裕子の共同研究から—

秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座の教員である山名裕子は、学部と附属学校との共同研究について次のように述べています。

私は「幼児期の数量概念の発達」を中心に研究している。実験的な手法を用いた基礎研究を中心に行っていたが、秋田大学に着任した後は、附属幼稚園での週1回の観察を中心に、子どもが遊びの中で学んでいること、具体的な経験と抽象的な理解の関連を研究テーマとしている。附属幼稚園での観察が現在も中心ではあるが、算数を中心とした授業観察も附属小学校や特別支援学校で行っている。

子どもの発達過程を保育や授業の中でどのように捉え、どのように理解していくのか、あるいは子どもの発話から考えられる子どもの思考過程などを、保育者や教師とは違う視点から話すことで、子ども理解を深められるような共同研究をさせていただいている。その一方で、現場の先生方が日々、かかわりの中で感じている子どもの姿からは、一般的な発達過程からだけでは捉えられない発達の面白さや複雑さを改めて考えさせられる。様々な視点から、そして様々な子どもの姿を長期間にわたり共有できるのは、附属学校との共同研究における醍醐味の一つでもある。

山名の所感は、共同研究に携わる学部教員の気持ちを代表していると思われます。秋田大学教育文化学部は、このような意欲的な取組を進めて学部の教科内容学専門教員と教科教育学専門教員、そして附属学校教員の「距離」が更に近づいていくことを目指していきます。そして、実践と理論の往還を強化して、全国トップクラスの学力である秋田県教育への貢献を今まで以上に強固なものにしていきます。

(秋田大学大学院教育学研究科教授)